

みどり樹

vol.49
Autumn 2011

特集

これからの山形大学について語ろう！
学生と2期目を迎えた学長が交流を深めた座談会。

研究室訪問 / EM部

学生満足度の向上がポイント、さらに
「山形大学でよかった」と言われる大学へ。



これからの山形大学について語ろう！ 学生と2期目を迎えた学長が 交流を深めた座談会。

山形大学 学長

結城章夫 × 学生有志

在学生4名が学長室を訪れ、今秋、学長としての2期目をスタートさせた結城学長を囲んで座談会を行った。テーマは基盤教育や研究、東日本大震災後の対応等。これまでの大学生生活を踏まえつつ、これからの山形大学について語り合う貴重な意見交換の場となった。当初はやや緊張気味だった学生たちも学長の穏やかな対応に徐々に表情も和み、会話が弾んだ。

苦手なことに敢えて取り組み 豊かな人間力を身につけて

糠塚 この9月から結城学長は2期目を迎えられたと聞きました。いきなりで恐縮ですが、2期目の抱負で座談会の口火を切っていただきたいのですが。

結城 わかりました。4年前の学長就任以

来、「何よりも学生を大切に、学生が主役となる大学創りをする」「教育、特に教養教育を充実させる」という2つの基本方針を掲げて取り組んできました。2期目はこの2つの柱をさらに推進し、キラリと光る存在感のある大学を目指していく考えです。

高橋 教養教育の充実と言うことで「基盤教育」が導入され

たのが平成22年、2年生の私はその第一期生。基盤教育は先生がユニークで学ぶことも多いのでとても楽しく受講しています。特に、〈応用と学際〉が面白いですね。

井部 私は、同じ高校から来た友だちがないので最初は孤独だったんですが、基盤教育を通して学部を超えた友だちがたくさんできて今はとても楽しくやっています。

結城 スタートアップセミナーはどうでしたか？

井部 レポートの書き方を、最初に教えてもらえてよかったです。いろいろな授

業に反映できています。

結城 山形大学は、文系から理系まで6学部を有する総合大学ですが、ここ小白川キャンパスで一緒に学べるのは1年の時だ

ユニークな授業や先生が 多くて楽しい —— 高橋



結城章夫

ゆうきあきお ●山形県村山市出身。東京大学工学部物理工学科卒業。71年科学技術庁入庁。科学技術庁研究開発局長、文部科学省大臣官房長等を歴任し、07年山形大学学長に就任。今秋9月から2期目がスタート。

工学部3年
遠藤純平

地域教育文化学部2年
高橋愛実

理学部4年
糠塚元気

け。その点でも基盤教育は大事と考えています。

高橋 基盤教育には話し合いの時間が多く、他学部の人との違った考え方に触れて自分も新たな考え方ができるようになりました。

結城 講義を聴くだけでなく、小さな教室で話し合ったり、レポートをまとめたり、発表したりといった授業が多いですね。

高橋 紅花やエリアキャンパスもがみ、藤沢周平等、山形でしか学べない教養科目(山形に学ぶ)にも魅力を感じました。

遠藤 4年生の僕としては、後輩の受けている基盤教育を、率直に羨ましいと思っています。3・4年生もスタートアップセミナー等を受けられていたら、その後の授業に生かしていただろうなって。でも、その反面、苦手なものも履修しなければならないというのがちょっと気が重いというか…。

結城 苦手なものでも大事なものはありますから。尻を叩いてでもやってもらいたいわけですよ。いずれ社会に出れば、専門だけでは世の中通用しません。

社会のこと、人生のこと、幅を広げて人間性を豊かにしてほしいと願っています。

世界に誇れる研究拠点を増やし、より魅力ある大学へ

遠藤 山形大学と言えば工学部の有機エレクトロニクスや医学部の分子疫学等、研究分野でも大きな注目を集めています。結城学長は大学における「研究」をどのように

教養教育から基盤教育へ

教育科目は、一般教育科目、外国語科目、情報処理教育科目の科目内容ごとに区分。基盤教育は、カリキュラムの構成要素ごとに、目的・目標に応じて導入科目、基幹科目、教養科目、共通科目、展開科目に区分している。

教養教育

一般教育科目	文化・行動領域
	政経・社会領域
	学際・総合領域
	生命・環境領域
	数理・物質領域
外国語科目	英語
	初修外国語・日本語
情報処理教育科目	

平成22年度より

基盤教育

導入科目	スタートアップセミナー(新設)
基幹科目(新設)	共生を考える
	人間を考える
教養科目	文化と社会、自然と科学
	応用と学際、山形に学ぶ(新設)
共通科目	サイエンススキル
	健康スポーツ
	コミュニケーション・スキル1(英語)
	コミュニケーション・スキル2(初修外国語)
	情報リテラシー
展開教育科目(高年次開講、新設)	

位置づけてお考えですか。

結城 大学の機能には大きく分けて、教育、研究、社会貢献の3つがあげられます。どこに力を入れるかは大学によって異なります。本学

はもちろん教育第一ですが、研究の重要性も十分に認識しています。特に、国立大ということで、“この分野なら山形大学”“この研究なら日本一”といえるものをいくつか持っていないと存在価値を問われてしまうわけです。幸いにも、わが山形大学では、理学部の〈核子スピン〉、医学部の〈分子疫学〉、工学部の〈有機エレクトロニクス〉といった世界レベルの研究が進められていま

す。これらを山形大学先進的研究拠点として大学独自に認定し、重点的に支援するとともに、将来、国内外の先端的研究拠点と



なり得る萌芽的研究グループについても支援を決めています。

遠藤 私は工学部なので有機EL分野の教

優れた研究成果は 周囲にも波及を

—— 遠藤



山形大学 学長
結城章夫

人文学部1年
井部春佳

山形大学先進的研究拠点 (YU-COE)

国際的に通用する高水準の研究拠点や、研究成果が社会や地域に大きく貢献することが期待できる研究拠点をYU-COEとして重点的に支援している。



核子スピン

核子を構成する微小な粒子のスピン・メカニズムを解明し、物質の究極構造の本質に迫る偏極ターゲット実験装置。



有機エレクトロニクス

勢揃いしたドリームチーム教授陣。有機太陽電池や有機トランジスタ等、研究分野が広がっている。



分子疫学

地域住民の参加を得て、がんや生活習慣病等の発症や進行と体質の関連を解明。体質に合わせた医療の実現を目指す。

授陣や設備が非常に充実しているのはわかっていますが、学科が違うとあまり接点がなくもったいない気もしています。講演会等を開いて、他の学部学科にもその効果を波及させてほしいですね。

糠塚 山形大学の有機EL研究は有名で、入学前から知っていましたが、この小白川キャンパスにも有機EL照明等があれば、学内全体が盛り上がるような気がします。

結城 頂上が高ければ、その裾野も広がります。優れた研究分野を有することは、大学全

体の底上げになります。有機EL照明とはいきませんが、有機ELパネルならインフォメーションセンターにあるので、見てみてください。

学生の指導・支援第一に 業務の時間やエネルギーを軽減

高橋 大学生活の中で時々感じるのが、教職員のみなさんがとても親切でフレンドリーだということ。これって国立大学の法人化や結城学長のおかげなんでしょうか。

結城 国立大学が法人化されたことで経営努力が求められるようになったことは確かです。学長である私は経営の最高責任者で、大学をよりよく運営していくための指針として毎年、「結城プラン」を発表しています。私一人ではできませんから、5人の理事(副学長)に教育・学生支援、研究・評価、社会連携・国際交流、組織運営・人事・情報発信、財務・キャンパス環境・業務改善・EMを担

当してもらっています。そして、年頭にプラン(Plan)を発表→実施(Do)→チェック(Check)→次期プランの作成(Action)というPDCAサイクルで計画的かつ継続的に改革を進めています。また、意志決定のスピードアップ、事務手続きの簡素化にも併せて取り組んでおり、会議は3分の1に減り、私が判子を押す稟議書も3分の1になりました。これで節約できた教職員の時間や労力は学生の指導や教育、支援の充実に向けるようにと話しています。

糠塚 学生センターの入り口に何でも相談コーナーがあり、用件によってどの窓口に行けばいいか等、何でも教えてくれるので助かっています。

井部 私はまだ1年の前期を終えたばかりですが、学生センターの利用回数は数えるほどですが、行けば何でも親切に対応してもらえています。

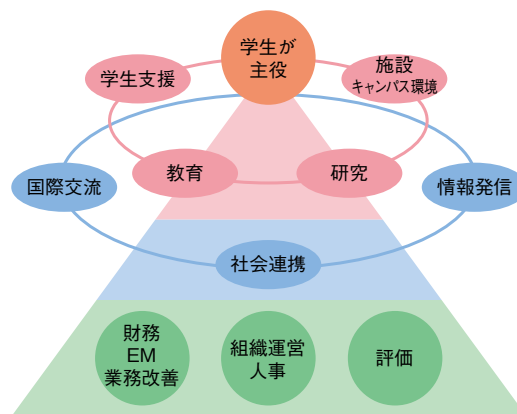
何でも相談コーナーがあり 利用しやすい

—— 糠塚



大震災後の取り組みと 今後の東北を担う大きな使命

井部 私は、福島先生の基盤教育「実践的キャリア教育学」の授業でゴールドウイーク明けからはほぼ毎週、東日本大震災のボランティアで宮城県に行っています。テレビ越しではわからなかった被災地の現実を目の当たりにして非常にショックを受けました。学長は、今回の震災を受けて、山形大学は今後どのような役割を果たすべき



結城プラン

結城プランは、「①何よりも学生を大切に、学生が主役となる大学創りをする。」「②教育、特に、教養教育を充実させる。」という大学経営の基本方針のもと、山形大学が取り組むべき課題と目標を、学長行動指針である「結城プラン」としてとりまとめ、毎年の経営改革サイクルを推進しております。このように計画的・継続的に改革を進めることによって、山形大学がキラリと光る存在感のある国立大学として発展していけるよう努力しております。

とお考えですか。

結城 今回の震災では甚大な被害が出ており、本当に心が痛みます。そんな中、山形県の被害は非常に少なく、大学自体もほとんど被害は受けていません。しかし、本学の学生の約3割が岩手、宮城、福島の前3県の出身者ということで犠牲者も出ており、被災学生は300名前後にも及んでいます。大学としては、被災学生に対して入学金や授業料の免除、

教職員の給与1%拠出を財源とする奨学金等の経済的な支援に加えて、メンタルケア等も含め、手厚い支援の手をさしのべていこうと思っています。糠塚さんは岩手県、高橋さんは宮城県の出身と聞いていますが、大丈夫でしたか。

糠塚 私は内陸の方なので、思ったほどひどくはなかったです。

高橋 今はもう大丈夫ですが、当時はライフラインが一気に止まって大変でした。

結城 みなさんご存じのように、毎週土曜日に「スマイルエンジン山形」というボランティアバスが、山形と米沢から出ていて、学生や教職員、そして市民のみなさんと息長く支援していこうという活動を行っています。なんととっても山形は被災地に非常に近いわけですから、継続することが大事だと思っています。自分も何か協力したいと思ってなかなか行動に移しにくいもの。でも、毎週土曜日にこの場所に行けばみんなと一緒にボランティアに参加できるという仕組みがあれば、ぐっとハードルが下がります。バス代はすべて大学が負担するので心配なく、ずっとスマイルエンジンが回り続けるようにお手伝いしていき

被災地も少しずつ変化、でも、まだまだ —— 井部

ヒマワリのタネを播く活動もしています。ヒマワリは土の塩分を吸収してくれるんです。それから海岸の瓦礫撤去等、いろいろな作業にあたっています。島ももちろんですが、仙台市内を見てもまだまだひどい現状を実感するばかりです。

結城 復旧も、ましてや復興は非常に長い道のりになりそうですね。

遠藤 私もボランティアに参加していますが、本当に長期的な支援が必要だと感じています。

井部 先程、学長から奨学金の話がありましたが、私の友人に南三陸町出身の人がいて、奨学金でとても助かっていると言っていました。

結城 そうですか。少しでも力になれてよかったです。こここのところ日本はずっと経済至上主義というか自己中心的になってい



模の大学。東北大学が甚大な被害を受けた現状を考えれば、ここが山形大学の頑張りどころです。大学には、10年後、20年後の東北はどうあるべきかを考え、提案し、実践していく使命があると考えています。今回の震災でだれも東京一極集中ではダメと感じているはず。自立・分散型の社会になっていかなければならないと。そのためにも山形大学では全学部をあげて取り組んでいくべく、今「東北創生研究所」の開



学生が主体となって運営している日帰りボランティアバスツアー「スマイルエンジン山形」の活動で宮城県沿岸部の被災地を訪れ、側溝のヘドロ掃除に懸命に取り組むボランティア参加者。



いと思っています。井部さんは、ボランティアでどのような活動をしているんですか。

井部 当初は、津波に遭った民家の泥出し等でしたが、最近は塩釜の桂島という島に行っていて、津波で塩害に見舞われた畑に

たように思います。それが、この大震災を機にいろいろ考えるようになって、自分も何かしたい、つながり、助け合いたいという潜在的な気持ちが顕在化してきたのではないのでしょうか。今の気持ちを大事にしたいものです。

本学は、東北地方では東北大学に次ぐ規

設に向けて準備をすすめています。私の当面の重要課題として尽力していきますので、みなさんも勉強、研究、ボランティアにとましますがんばって活躍してください。大いに期待しています。今日はどうもありがとう。

学生 どうもありがとうございました。

人文学部

Faculty of Literature and Social Sciences

「新入生歓迎の会」並びに「保護者相談会」を開催



人文学部では、先の東日本大震災の影響で中止となった全学主催の入学式に替えて学部主催の「新入生歓迎の会」を4月20日(水)9時から基盤教育2号館221教室を会場に開催しました。

歓迎会では、渡邊人文学部長から、「新入生の皆さんには、大学で勉学に励むと共に様々な活動をする中で、今回の震災から学んだ『人を活かすことによって自分も生きる』という力を身につけ、4年後には立派な大人となって巣立って欲しい」との挨拶の後、新入生を代表して法経政策学科の伊藤淳樹さんが大学生生活を送るに当たっての今後の抱負について挨拶を行い、最後に歓迎セレモニーとして、学生サークル「四面楚歌」による花笠踊りが披露されました。

また、同日10時から、人文学部1号館103教室において、保護者相談会も開催され、配布資料に基づき学生生活の概要について説明の後、全体質疑応答、個別相談も行われました。

また、同日10時から、人文学部1号館103教室において、保護者相談会も開催され、配布資料に基づき学生生活の概要について説明の後、全体質疑応答、個別相談も行われました。

地域教育文化学部

Faculty of Education, Art and Science

山形中央高等学校と高大連携協定を締結



7月6日(水)、地域教育文化学部は山形県立山形中央高等学校と、体育・スポーツの分野において一貫した教育の促進を図り、本県の体育・スポーツの振興を担う人材育成を推進するための協定を締結しました。

締結式(本学部会議室)では、那須稔雄学部長、遠藤啓司校長が協定書に署名した後、更なる成果に向けて関係者による懇談を行いました。

過去3年間、本学部スポーツ文化コース教員等が同校体育科生徒に、生涯スポーツ

論、コーチング論等の特別講義を行ってきた成果を踏まえ、生徒・教員への支援、交流など幅広く連携することとしたものです。

連携協力の主な内容は、①大学教員による特別講義、②高校教員の指導力向上への支援、③学生の高校での教育実習や模擬授業の受け入れ、④課外活動における交流等です。

理学部

Faculty of Science

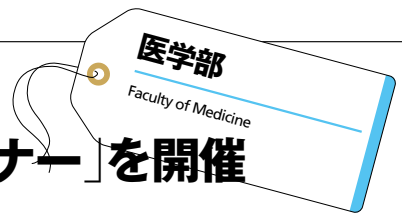
小さな科学者・体験学習会「光の不思議」を開催



7月24日(日)に、山形県産業科学館で体験学習会「光の不思議」を開催しました。小中学生とその保護者合わせて34人の方々に、光をテーマとした、実験や工作、科学手品等を楽しんでいただきました。

大人にも十分楽しんでいただける企画です。例えば、テレビ等のリモコンから出る赤外線信号を音にして聞くコーナーでは、携帯電話の赤外線通信の信号でも遊べることを知ると、お母様方もご自分の携帯電話で積極的に参加していただきました。

「光の不思議」は2001年に産業科学館がオープンして以来、産業科学館との連携のもと、山形大学理学部が地域貢献の一環として毎年実施してきている催しです。今回でちょうど10年、11回目の開催となりました。この間、延べ400人以上の児童や保護者の方々に科学の面白さを体験していただきました。

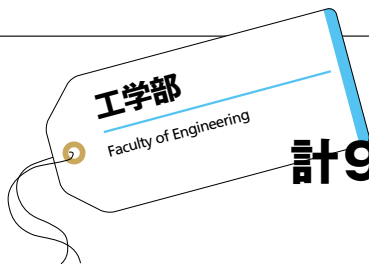


「高校生を対象とした医師・看護師体験セミナー」を開催

7月10日(日)に、山形県健康福祉部との協定に基づく事業の一環として「高校生を対象とした医師・看護師体験セミナー」を実施しました。これは、山形県内の高校1年生で医師・看護師を目指す生徒を対象として、医師希望者50名、看護師希望者40名の定員で募集して行ったものです。

全ての体験プログラムは、教員と学生の協力を得て企画・実施し、午前中は、AEDの使用法・心肺蘇生法・エコー・気管挿管・妊婦体験・育児体験等が行われ、昼食を

はさんで医師・看護師のコースに分かれて、医師コースでは病理学実習として組織標本の観察体験等、看護師コースではがん化学療法の看護として点滴のやり方等、医師・看護師さながらの体験を行いました。終了後のアンケートでは「貴重な体験ができた」「楽しかった」「もっと長い時間やって欲しかった」等の意見が多数あり、医師・看護師への意欲が高まったようです。



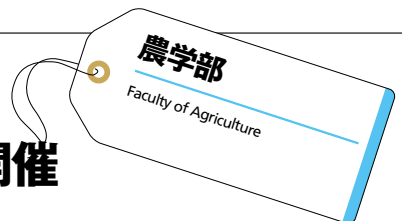
計9回の「チーム米沢」震災ボランティア活動

5月21日～7月23日まで毎週土曜日、工学部の学生・教職員、一般の方もあわせた「チーム米沢」で、宮城県東松島市及び石巻市で日帰りボランティア活動を行いました。延べ人数で約330人の参加があり、中でも学生の参加は218人。9回中8回参加したという学生もおり、意識の高さが伺えました。

参加者たちは毎週朝6時にバスで出発し、現地に向かいました。作業内容は毎回違いましたが、主に乾いた泥の片付けやガレキの撤去、道路の側溝に溜まった泥かきな

どを行いました。骨が折れる作業でしたが、終了後には被災者の方から「本当にありがとうございました」と心から感謝の言葉をいただきました。

また、毎回の活動では全て学生がリーダーとなり、チーム全体及び活動班のメンバーをまとめました。不慣れな学生も多く最初は戸惑っている様子でしたが、回を重ねるごとにどんどん作業がスムーズになっていき、その面でも学生たちの成長が見られました。



こども自然体験学習「森の学校」を開催

7月16日(土)、農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林にて、小学生を対象とした体験学習「森の学校」を開催しました。これは、地域の小学生が演習林での体験学習を通じ、多様な自然の姿を理解し森林に興味をもってもらうことを目的とした、毎年恒例となっている大学演習林解放行事です。

当日は、小学生13人が参加し、ロベス流域保全部門長によるミニレクチャーの後、学生サークル「森の民」による指導のもと、

炭ぼっくり作り、窯だし、コースター作り、川遊び、ピザ作り等さまざまな体験をしました。暑さの中でしたが、汗を流しながらも子供たちは大自然の中で楽しく元気に過ごしました。

この他に、10月・2月にも実施を予定しており、季節ならではの自然体験を行うことになっています。



学生満足度の向上がポイント、さらに「山形大学でよかった」と言われる大学へ。

福島真司 エンロールメント・マネジメント部 教授



醸成したい本学への愛学心、卒業後のつきあひも大切に。

不況や少子化等により大学を取り巻く環境は厳しさを増すばかり。こうした状況下で大学を永続的に運営していくためには、在学生や卒業生に“この大学でよかった”と思わせる魅力ある大学づくりが重要になってくる。山形大学では、いち早くエンロールメント・マネジメント(EM)・セクションを設置し、入学前、在学中、卒業後、それぞれの時点での満足度向上に向けて取り組んでいる。業務としては、学生募集や入試に関する総括的な業務、学生満足度調査等の調査分析、卒業生と大学の関係強化に大別される。現在は14人のスタッフがそ

れらの業務にあたっている。福島先生は、EM部で主に、学生募集や、学生・卒業生・保護者等に関する調査分析を担当しており、高校や予備校での講演活動やオープンキャンパス等の受験生向けイベントの充実や諸調査の分析業務等に尽力している。

アメリカでは、大学が卒業生とのつながりを大切にする風潮が根付いており、家族連れでの母校のスポーツの応援をしたり、子や孫が母校に入学することを希望したり、遺産を母校に寄付する等が盛んに行われている。それに比較して、日本における大学と卒業生とのつながりは、希薄な場合が多い。EM部では、山形大学を、学生と生涯にわたってつながることのできる大学にしていければと考えている。

授業を通して学生を知り、EMのプランニングにも反映。

本学着任前は、私立女子短大やリベラル・アーツ教育を実践する私立4年制単科大学、他の地域の国立大学といった多様な大学での勤務経験を持つ福島先生。さまざま

な設置形態の大学の学生募集、入試実施、課外活動等の学生支援や同窓会サポートの現場を知り、大学アドミニストレーションの修士も持ち、学生や卒業生の支援活動に積極的であるというプロフィールが、EM専任教員を求める本学の目に止まり、2007年に教授として迎えられた。

EM部専任ではあるが、“学生の前に立ちたい”“学生の気質を肌で感じたい”と自ら授業の担当を希望。ももとは言語教育学が専門で、日本語の文法を授業で担当していたが、学生に求められる、就職活動や社会に出て実際に役立つコミュニケーションの授業を展開するようになった。本学でも、社会情勢に即した授業を展開し、東北芸術工科大学の学生や社会人等の外部からの受講生、リピーターも少なくない。今年度前期は、「実践的キャリア教育学」「山形を元気にする企業家に学ぶ」を開講。学外での活動が多く、授業外での長い活動時間等の負担が大きいかかわらず、人気授業となっている。そして、授業で得られた手応えは、EM部のプランニングやその運



福島真司

ふくしましんじ●エンロールメント・マネジメント部教授/専門は教育社会学。広島大学大学院等3つの大学院を修了。修士(教育学、大学アドミニストレーション、MBA)。国立・私立大学・短大等での勤務経験を生かし、大学マネジメントおよび基礎教育授業を担当。



EM部
研究室訪問

EM=エンrollment・マネジメントとは、入学前から在学中、卒業後まで学生一人一人を一貫してサポートする総合的な学生支援を実現するためのマネジメント手法。山形大学では、他大学に先駆け2006年に専任教職員組織によるエンrollment・マネジメント室を設置。今年4月には「室」から「部」へと組織の充実が図られ、魅力ある大学づくりのために邁進している。その牽引役とも言える福島真司教授は、学生募集に関する戦略的なプランニングや学生満足度調査を始め大学の諸調査の実施や分析等を主業務としながらも、講義も担当。社会情勢を反映した授業内容と人柄で人気を集め、学生満足度アップに直接的に貢献している。

営へとフィードバックされている。

今、東北の大学で学ぶ意味と価値、復興のまただ中で何を学ぶ。

「実践的キャリア教育学」「山形を元気にする企業家に学ぶ」ともに、今年度は3月11日に発生した東日本大震災を意識した授業内容となった。特に、「実践的キャリア教育学」では、東北復興ボランティアプロジェクトをテーマに掲げ、被災地や山形県内でのボランティア活動を行った。被災地のニーズに合わせたボランティア活動を



「実践的キャリア教育学」の授業では、被災地での瓦礫撤去を始め、学生自身が有機農法で育てた野菜を材料に、炊き出しのボランティアも実施。餅つきも行い、仮設住宅に心を込めた食事と元気を届けた。

立案し、その運営までを実践。自分たちの活動のインターネットでの喧伝やマスコミへの露出を極力避け、被災地感情や刻々と変化する世論にも十分配慮し、活動を誇示するのではなく、粛々と瓦礫の撤去や仮設住宅の支援等を行った。その際、大学単独の活動ではなく、被災地の社会福祉協議会や専門のNPO等との連携により、被災地に寄り添う地道な活動を展開した。

一方、「山形を元気にする企業家に学ぶ」では、山形県中小企業家同友会例会(経営者の勉強会)等への参加や経営者の講演といった通常のプログラムに加え、被災地企業の訪問を実施し、復興の最前線にある企業の現状を直接目にし、困難の中で踏み続ける経営者の熱意と覚悟に触れた。

こうした今ここでしか学べない体験を通して、学生に大きな変化が生まれた。高い意識で学ぼうとする姿勢や自分から積極的に行動しようという自律の精神やリーダーシップが芽生えつつある。復興のために、専門性等の実力を身につけたいという強い願望が生まれ、「安定のために公務員や大



「山形を元気にする企業家に学ぶ」の特別授業として被災地企業を訪問し、震災直後の人命救助や地域の雇用を守るための壮絶なお話を聞いた。地域の本当の再生とは何か、生きるとは何かを、学生たちは本気で考え始めた。

企業に」という志向は「社会のため、地域のために生きたい」という志向へ向かっている。

大震災直後のこの時期に、東北の地に生きること、学ぶことの意味、価値を考え抜くことで生まれる成果は想像以上に大きいようだ。今後も被災地のニーズの変化に合わせた活動を継続し、被災者の方々に求められる活動を追求していくことで、学生たちに成長や変化がもたらされることだろう。それらは、EM部が目指す「学生満足度の向上」にも直結する。

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 現場では常にカメラやメモを持つ。少しでも多くの情報を集めることが記事を書く第一歩。



2 支社に戻る時間がないときは、その場で記事を書くことも。



3 何度か取材にお邪魔してもらった「走れ!! わぁのチャリ」。山形大学OBとして恥ずかしくない取材をしようと心掛けた。

農学部で得た知識やつながりを生かして 記者という特殊な分野に活躍の場を見いだす。

小田信博 記者

東北・北海道出身者が多い山形大学において、広島県出身という小田さんはかなりの少数派。高校時代、植物の遺伝子研究に興味を持った小田さんは、農学部を志望。全く知らない遠い土地で暮らしてみたいとの思いもあって、自然が豊かで農業も盛んな山形県を選んだ。生物資源学科(現在は食料生命環境学科1学科6コース制)で取り組んだテーマは、庄内地方独特の枝豆、だだちゃ豆の食味に関する研究。まさに山形の大学でしか取り組めないテーマに巡り合えたわけだ。さらに、4年間では遺伝子関係の研究が十分にできなかったとの思いからそのまま大学院修士課程に進学。遺伝育種学が専門の阿部利徳先生のもとで日々研究に励んだ。自分の研究はもちろん、後輩への指導や学会での発表、研究室同士で

の飲み会等、さまざまなことが経験できたこの2年間で特に充実していたと振り返る。

ちょうどその頃、山形新聞に農学部の研究室の紹介が連載され、阿部先生の研究室にも取材記者が訪れた。新聞記者の仕事は初めて間近で見て、記者という仕事に興味を覚えた。それまでは、新聞社という文系のイメージが強かったが、掲載になった記事を読んで、理系の知識や経験を生かすこともできるのだと感じた。それをきっかけに、一見、畑違いな新聞社への就職を希望した。広島へ帰るといふ選択肢もあったが、山形新聞から内定をもらえたことで山形に留まることを決意。なかなか経験できない職種だから挑戦してみたいと両親を説得したのだった。

現在は、鶴岡支社で取材から撮影、記事

の作成までを担当。事件や事故が起こればすぐに現場に駆けつけたり、警察に話を聞きに行ったり。そのほかにも展示会やイベントの取材も行う。震災直後の4月には、不用自転車を整備・修理して被災地に届ける農学部のボランティア「走れ!! わぁのチャリ」の活動を取材するために母校を訪れ、後輩たちの活躍の記事として伝えることができた。この地で記者として仕事をしていく上で山形大学とのつながりや農学部で学んだことは大きい。これからも何か頑張っている人、団体を多く紹介していきたいと希望に燃える。そのためにも、今は“この人に取材をお願いしたい”と思ってもらえるような記者を目標としている。

好奇心の成果

今回のランナー:



小田信博

おだのぶひろ●広島県出身、平成22年度農学研究科修了。植物の遺伝子研究に興味を持ち、農業の盛んな山形で修士課程まで学ぶ。山形新聞社鶴岡支社勤務。事件や事故、イベント等の取材、撮影、記事作成を担当。



阿部愛美

あべあいみ●地域教育文化学部4年、山形県出身。小学3年の時に長身を生かしてバスケットを始め。今夏、中国で開催されたユニバーシアードに日本代表として出場。さまざまな経験を過ごし、インカレベスト4を狙う。

大好きなバスケットで日本代表も経験、 チーム力の充実で、今年こそ悲願のベスト4へ。

練習の成果

阿部愛美 地域教育文化学部文化創造学科4年

インカレ(全日本大学バスケットボール選手権大会)で5年連続ベスト8入りを果たすなど、山形大学の女子バスケット部は東北屈指の強豪チームとされている。特に、今年のチーム力は今まででもっとも充実していると評価が高い。その中心選手としてプレーしているのが阿部愛美選手で、ポジションはフォワードまたはガード。精度の高いスリーポイントシュートが得意としている。この夏は、中国で開催されたユニバーシアードの日本代表にも選ばれ、いつもはライバルとして対戦している他大学の選手とのチームプレーを体験した。震災の影響で強化合宿もままならない中で迎えた大会本番。当初はなかなかうまく関係が図れず、苦戦を強いられましたが、徐々にチームとしてのまとまりが生まれていったという。本学の大神訓章監督

がチームリーダーを務めていたことで心強さとプレッシャーを同時に感じながらの国際大会、外国チームのあたりの強さ、スタミナのの違いなどを痛感した試合が多かった。

阿部選手がバスケットボールを始めたのは小学校3年生の時。その頃から長身が目立っていたため友だちに誘われてスポーツ少年団に入団したのだ。それからは上山北中学校、山形商業高校、山形大学とバスケットの盛んな環境の中でよき指導者にも恵まれ、存分にプレーを磨くことができた。特に、大学生になってからは、それまでの監督の指示で動くバスケットから、自分たちで考え、チームメイトとともに創り上げていくスタイルになり、バスケットが一層楽しくなってきたという。大神監督の計らいで日本女子初のプロバスケットボールプレイヤーであり、日本代表の

キャプテンでもある憧れの大神雄子選手と一緒に練習する機会にも恵まれた。

今回のユニバーシアードでは日本代表として戦い、国体では山形県代表として戦う。その都度、さまざまなチームの一員としてプレーするが、大学のチームメイトとの関係がいちばん心地いい。つねに一緒にプレーし、互いの意見をぶつけ合い、切磋琢磨して積み重ねてきたものは伊達ではない。ぜひ、このメンバーで11月に開催されるインカレで大学としても悲願のベスト4入りを果たしたい。夏休みやお正月も返上で練習に打ち込めるのはやはりバスケットが好きだから。卒業後もバスケットを続けたいと思っていた阿部選手。その思いが実業団チーム入りというカタチで実現しようとしている。



1 今夏、中国で開催されたユニバーシアード競技大会でプレーする阿部愛美選手。対戦相手は強豪・オーストラリア。パスを出す相手を探しているところ。

2 国体の山形県代表メンバーとしても活躍する阿部選手。国体予選での一コマ、実業団チームの選手等との関係にも徐々にリズムが生まれ、果敢なプレーを見せる。

3 ユニバーシアード競技大会オーストラリア戦。平均身長で13cm差という大きな相手チームはトスアップでもこの迫力。苦戦を強いられながらも多くを学んだ。



地域教育文化学部食環境デザインコース

手作りの 安全な

「うんまい弁当」いらんかえ〜!



3年目を迎えた、「うんまい弁当」の制作と販売の季節がやってきました。後期の販売に先駆けてオープンキャンパスにて一番人気のハンバーグ弁当を販売し、当学部で学ぶ成果を高校生とその保護者の方々に見ていただきました。今回は、経験者である4学年が制作しましたが、真夏の食中毒多発時期に、栄養士の卵と言っても下素人集団が作成したのですから、厳重な食中毒発生予防措置を取ったことは、言うまでもありません。1か月前からメニュー作成や発注に取り組み、学生達、個々には、“生もの禁止条例”を通達しました。次いで、一週間前の厨房内での衛生ポイントの再チェック、そして前日の仕込みとシミュレーションを経て、当日の制作にあたりました。学生達は、安全でおいしいお弁当を提供するために、調理のプロ達が行っている衛生マニュアルを学んだ1か月でした。

後期は、その諸注意を目の当たりにしていた3学年が担当します。昨年度までの4メニュー、8回の提供から、毎回、違うメニューで8回の制作、販売を行います。



後期の販売について

- 10/28 ~ 12/16までの毎週金曜日
 11時30分から生協食堂前で販売致します。
 ・11/11 飯田キャンパスでも販売
 ・11/18 米沢キャンパスのみで販売

各日150食
 310円
 (税込)



山形大学人文学部生・大学院生が震災復興支援活動を行っています！

山形大学人文学部では、本年3月28日(月)に、人文学部生を中心とした「山形大学人文学部震災復興支援学生プロジェクト」が東日本大震災の被災者支援のために設立され、支援活動を行っています。

3月11日の東日本大地震と大津波、福島第一原子力発電所事故による未曾有の大災害は、東北地方のみならず日本社会全体に対し、いかに復興を成し遂げ、再生をはかるか、そして、山形県民としていかに復興支援を行うかという課題を提起するものでした。震災後、人文学部では、地域連携室を中心に被災者支援・復興支援への参加を呼びかけたところ、人文学部生・大学院生の有志が集まり、「山形大学人文学部震災復興支援学生プロジェクト」設立に至ったものです。復旧・復興には相当長期の時間がかかるという想定のもと、このプロジェクトは、ひとまず1年間の活動期間を設けて出発しています。

学生プロジェクトは、現在、人文学部の学生・大学院生を中心に数人の学部卒業生、社会人等の参加を得て学内外15人の構成メンバーで、被災者と被災地の支援活動を精力的に行っています。学生たちは、このプロジェクトをとおして、社会参加と社会貢献の意義、「復興」の実際の諸問題を学びます。

学生プロジェクトは、これまで、山形市内避難所(山形市総合スポーツセンター)でのボランティア活動に取り組みながら、宮城県東松島市と石巻市における復興支援活動として、①除菌水を作る機械の設置・除菌用品の提供、②炊き出し、③ヘドロの処理、④瓦礫の処理等の活動を行ってきました。また、被災地で使用する自転車・小型バイクの収集・修理・提供等も行っています。特に、被災地の床上・床下浸水家屋を中心とした住環境における衛生確保のために設置した除菌水を作る機械は高く評価されています。

これらの取り組みは、人文学部地域連携室の支援を受けながら、企業、社会福祉法人、NPO、大学周辺の業者等からなる、「学生プロジェクト・サポート企業ネットワーク」や被災地の協力家庭と連携して行われています。これらの活動は、8月1日(月)に、「3.11大震災 被災地支援学生ボランティア活動報告会」において、「人文学部震災復興プロジェクト・シーズン1～学生たちの4ヶ月～」と題して報告されました(人文学部ホームページ掲載)。

さらに、以上のような住環境の衛生確保を始めとするこれまでの様々な活動が評価され、学生プロジェクトは東松島市大曲浜地区の復興計画策定のための協力を依頼されました。今後の活動としては、住環境の衛生確保、復興計画策定への協力・提案と並行しながら、同地区を中心とした被災地域住民の話し相手等の活動を継続していくことになります。



ボランティア活動報告会の様子



石巻市内液状化の様子

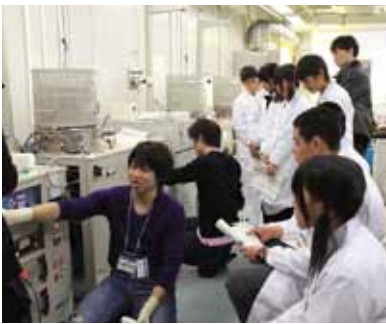


カレーの炊き出しをしている様子



家屋の床下調査の様子

ひらめき☆ときめき サイエンス ~ようこそ大学の研究室へ~



中学生、高校生が、現在活躍している研究者と大学の最先端の研究成果の一端を見る、聞く、触れることで、学術と日常生活との関わりや、科学(学術)がもつ意味に対する理解を深めていただく機会を提供するプログラムです。普段は見ることのない、大学の研究や研究者との対話などから、科学の楽しさ、難しさ、不思議に触れてみましょう。

11 | 5 理学部
(土) 13:00~17:00

宇宙で見つけた磁石星の探検 —体験して学ぶ強磁場の世界—

場所/理学部内(山形市・小白川キャンパス)
対象・募集人数/高校生 20名
参加費/無料
問い合わせ/理学部事務局
TEL 023-628-4505

10 | 15 農学部
(土) 9:00~16:00

生物の多様性を考える

場所/農学部3号館(鶴岡市)
対象・募集人数/高校生 20名
参加費/無料(昼食付)
問い合わせ/農学部企画広報室
TEL 0235-28-2910

11 | 12 工学部
(土) 10:00~16:00

有機の光を体験しよう

場所/工学部(米沢市)
対象・募集人数/中学生 20名
参加費/無料
問い合わせ/工学部研究プロジェクト支援室
TEL 0238-26-3590

入学試験

問い合わせ/エンロール・マネジメント部
政策課(入試担当)
TEL 023-628-4141

学部

人文学部

- 推薦入試 I (大学入試センター試験を免除する推薦入試)
出願期間/11月1日(火)~4日(金) (祝日を除く)
試験期日/11月15日(火)・16日(水)
- 社会人入試(法経政策学科のみ)
出願期間/10月24日(月)~26日(水)
試験期日/11月5日(土)
- 第3年次編入学
出願期間/10月3日(月)~6日(木)
試験期日/11月5日(土)

地域教育文化学部

- 推薦入試 I (大学入試センター試験を免除する推薦入試)
出願期間/11月1日(火)~4日(金) (祝日を除く)
試験期日/11月15日(火)・16日(水)
- 社会人入試(文化創造学科のみ)
出願期間/11月1日(火)~4日(金) (祝日を除く)
試験期日/11月15日(火)

理学部

- 推薦入試 I (大学入試センター試験を免除する推薦入試)
(物理学科のみ)
出願期間/11月1日(火)~4日(金) (祝日を除く)
試験期日/11月14日(月)

医学部

- 推薦入試 II (大学入試センター試験を課す推薦入試)
(医学科のみ)
出願期間/11月1日(火)~4日(金) (祝日を除く)
試験期日/11月18日(金)
- 推薦入試 I (大学入試センター試験を免除する推薦入試)
(看護学科のみ)
出願期間/11月1日(火)~4日(金) (祝日を除く)
試験期日/11月18日(金)

工学部 昼間コース

- 推薦入試 I (大学入試センター試験を免除する推薦入試)
出願期間/11月1日(火)~4日(金) (祝日を除く)
試験期日/11月19日(土)

工学部 フレックスコース

- 推薦入試 I (大学入試センター試験を免除する推薦入試)
出願期間/11月1日(火)~4日(金) (祝日を除く)
試験期日/11月19日(土)
- 社会人入試
出願期間/10月25日(火)~27日(木)
試験期日/11月19日(土)

農学部

- 推薦入試 I (大学入試センター試験を免除する推薦入試)
出願期間/11月1日(火)~4日(金) (祝日を除く)
試験期日/11月17日(木)

別科

養護教諭特別科

出願期間/11月1日(火)~4日(金) (祝日を除く)
試験期日/11月19日(土)

大学院

地域教育文化研究科

出願期間/9月28日(水)~10月5日(水)
(土・日曜日を除く)
試験期日/10月29日(土)

教育実践研究科

- 一般入試
出願期間/11月24日(木)~29日(火)
(土・日曜日を除く)
試験期日/12月3日(土)
- 現職教員入試
出願期間/9月12日(月)~16日(金)
試験期日/10月16日(日)

理工学研究科 工学系

- 第2回入試
出願期間/11月7日(月)~14日(月)
(土・日曜日を除く)
試験期日/12月1日(木)

※受験に関しては、必ず募集要項でご確認ください。

山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

公開講座等

ホームカミングデー in 小白川キャンパス

日時/10月15日(土)
場所/基盤教育1号館
問い合わせ/小白川キャンパス事務部
就職課
TEL 023-628-4145

人文学部

ポスト震災を考える —これからの社会の在り方

日時/9月27日(火)~10月25日(火)の
毎週火曜5日間 18:30~20:10
場所/人文学部1号館教室
対象・募集人員/一般市民、大学生、高校生
30名
参加費/2,000円(ただし、大学生・高校生
は無料)
問い合わせ/人文学部事務室
TEL 023-628-4203

地域教育文化学部

家族で考える理科教室

日時/10月1日(土)・15日(土)・22日(土)
11月5日(土) 13:30~15:30
開催場所/地域教育文化学部
対象・募集人員/小学校3年生以上の子ども
とその家族20組
参加費/2,000円
問い合わせ/地域教育文化学部事務室
TEL 023-628-4304

日本刀鑑賞のための基礎知識

日時/10月1日(土)・8日(土)・15日(土)
13:30~17:00
場所/地域教育文化学部
対象・募集人員/一般市民・大学生 35名
参加費/3,000円
問い合わせ/地域教育文化学部事務室
TEL 023-628-4304

理学部

午後のサイエンス —最新鋭・高感度加速器質量分析 システムがもたらす理学の新展開—

日時/10月22日(土) 13:00~16:30
10月23日(日) 13:00~16:00
場所/SCITA(サイタ)センター
山形大学高感度加速器質量分析センター
対象・募集人数/一般の方(高校生以上) 30名

参加費/一般:1,000円、高校生:500円
問い合わせ/理学部事務室
TEL 023-628-4505
※山形大学大学祭「八峰祭」と同日開催

医学部

市民公開シンポジウム ゲノム情報とどう向き合うか ~オーダーメイド医療実現に向けて~

日時/11月23日(水・祝) 14:00~16:00
場所/パレスグランデール(山形市)
募集人数/100名
参加料/無料
問い合わせ/医学部グローバルCOEプログラム
先端分子疫学研究科コホート管理ユニット
TEL 023-628-5256

農学部

収穫体験 大学農場へ行こう!

日時/10月 土日祝日除く毎日
場所/農学部附属やまがたフィールド科学
センター農場(鶴岡市高坂)
対象/幼稚園・保育園児等(団体)1日2団体
まで
参加費/収穫物代金
問い合わせ/農学部事務室(附属施設担当)
TEL 0235-24-2278

附属博物館

KAKEJIKU 山形大学附属博物館所蔵 日本画作品展

日時/10月28日(金)~11月11日(金)
9:00~17:00
土曜及び11月6日(日)休館
10月30日(日)11月3日(木・祝)は
11:00~17:00
場所/小白川図書館1階シアタールーム
入場料/無料
問い合わせ/附属博物館
TEL 023-628-4930

大学祭

小白川キャンパス

八峰祭

日時/10月22日(土) 10:00~21:00
10月23日(日) 10:00~16:00
場所/小白川キャンパス(山形市)
テーマ/『発信』~One Step for Smile~
内容/ミスコン、チーム対抗戦、野外特設ス

テージ、NHK合同企画
問い合わせ/学生課課外活動担当
TEL 023-628-4121
八峰祭HPアドレス
<http://www.yatsuminefestival.com>



工学部

吾妻祭

日時/10月8日(土)~10日(月)
場所/8日 米沢女子短期大学構内
9日・10日 山形大学工学部構内
テーマ/ピース~Peace×Piece~
内容/アーティストライブ(SPECIAL LIVE
2011)、特設ステージ、フリーマーケット、中
夜祭、伝統工芸(紅花染め体験、琵琶弾き語
り、蕎麦打ち体験)、お化け屋敷、研究室公開
吾妻祭HPアドレス
<http://azumasai2011.web.fc2.com/>
※同時開催
山形大学工学部クラシックコンサート
ホームカミングデー、工学部保護者懇談会



農学部

鶴寿祭

日時/10月15日(土)・16日(日)
場所/農学部(鶴岡市)
テーマ/Green revolution
内容/野菜即売会、研究室紹介、サークル発
表、模擬店、ミニSL、もちつき等

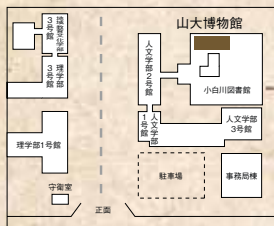


山大博物館

YAMADAI MUSEUM

シリーズ 17

山形大学附属博物館の
収蔵品をはじめ、
大学が誇る貴重な資料を
紹介いたします。



図書館及び博物館は学外の方もご利用いただけるように開放しております。利用方法等は図書館カウンターにお申し出ください。知的宝物がいっぱいの図書館・博物館に是非お越しください。

94センチ×35.2センチ 絹本着色 一幅 19世紀
杉浦雲溪
《高砂図》



一組の老夫婦が両側から松を抱え込むようにして立っています。この二人の間には墨が塗り残された部分があり、そこに記された落款(署名)から、幕末から明治かけて活躍した水野藩のお抱え絵師杉浦雲溪(1843～1874)の作であることがわかります。

どことなく福々しさを漂わせる二人は「尉」と「姥」と呼ばれる能「高砂」の登場人物です。この能は高砂(兵庫県)の「相生の松」を舞台に、松が長寿の象徴であり、「相生」が「相老い」と同じ読みであることから、夫婦が共に齢を重ねるめでたさがうたわれています。そこから尉と姥は夫婦和合と長寿を象徴するものとして描かれるようになりました。これらは「高砂図」と呼ばれ、江戸時代の初めから現代に至るまで数多く制作され、婚礼や長寿の祝いの席に飾られてきました。

「高砂図」はとてもありふれたものであり、そのほとんどに浜辺の松の下で熊手を携える尉と箆を持つ姥が静かに佇む様子が表されています。ですから、本図のように巨大な松の幹に腕を回す尉と姥を描いたものは珍しく、今のところ同様の作品は見つかってはいません。この尉と姥の仕草は一体何を意味するのでしょうか？

この絵を改めて見直してみると途方もない大きさの松は天を支える大きな柱に見えないでしょうか？その周りを夫婦が取り巻くという光景からイザナギとイザナミの神生みの神話が思い起こされます。実は尉と姥を祀る高砂神社には二人がイザナギとイザナミの化身であるという言い伝えもあります。

この絵は尉と姥の姿を借りてこの国を生んだ神々を表すことにより一層強い幸福への願いが込められたものでしょう。

(基盤教育院 佐藤琴)

編集後記 Editor's Note

今回のみどり樹を読んで、大学が法人化によってずいぶん変わったことがわかると思います。自分の世代の大学の先生は、今のように学生に手厚かったでしょうか。今の学生はある意味不幸かもしれません。大学でいるんなことを用意してくれて、準備してくれるからです。学生が自ら考え行動できるようなプログラムもありますが、お客さんのままで4年間すごしてはいけないと思います。自分の手足で行動し、考えていく、その結果が満足する行くものでもその過程で成長することが大事だと思います。結果として満足を得ることも大事ですが、満足する結果がえられるようなプログラムを提供することについて大学として考える時期にきているような気がします。

(みどり樹編集委員会委員 栗山恭直)

表紙のことば

座談会を終えてほっと一息。山形大学のシンボルとも言えるイチヨウ並木の下、学長を囲んでの記念撮影に臨んだ学生たち。当日が誕生日という学生もおり、いい記念になったと、みな会心の表情を浮かべていた。

●この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧になれます。

[山形大学 みどり樹](#) [検索](#)

●「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にどうぞ。E-mail: kohoo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

●「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

—地域に根ざし、世界を目指す—

山形大学
Yamagata University

山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>